

ユーザ訪問インタビュー



三菱総合研究所 政策・経済研究センター 主席研究員 後藤 康雄様

専門分野：マクロ経済・経済政策

近年発表の著書・研究論文：

「The Government and the Financial System: An Overview」(慶応大学池尾和人教授との共著、

『Public Policy Review』, Ministry of Finance, Japan, 2006年)

「わが国の公的債務管理におけるガバナンスについて」(共著、財務省『フィナンシャル・レビュー』

所収、2005年) など

今回は東京・大手町にある株式会社 三菱総合研究所 政策・経済研究センターの後藤康雄様をお訪ねしました。これまで大学という場で EViews を使った教育や研究に携わるお客様を取材してきましたが、今回は初めて民間企業での取材ということで、当社の講習会にもよくご参加いただき後藤様にご協力いただきました。EViews との出会いから、利用方法、自主研究などさまざまなテーマについてお話を伺いました。

EViews の活用で浮いたマンパワーを利用し、ほかの分析手法の実行も可能に！

● マクロ経済ショックの伝播を自主研究

——三菱総合研究所 政策・経済研究センターとはどのようなことをする会社なのでしょう？ そして後藤様の最近の研究内容を教えてください。

【後藤氏】

三菱総合研究所は、いわゆるシンクタンクと呼ばれる組織です。国内外の企業や政府など幅広いクライアントから、さまざまな調査・研究を受託しています。

そのなかで私の所属する政策・経済研究センターは、マクロ経済を担当しています。それこそマクロ経済全般なので、カバーする領域はとても広いのですが、経済をテーマとする受託研究のほか、当社自身の自主研究も、私の部署の活動の大きな柱となっています。

私の担当は、後者の自主研究が中心です。私の最近の研究内容ですが、経済が激動のこの局面で足もとの金融情勢をどうとらえるべきか、それを受けてこれからの経済はどうなっていくのか、といった経済情勢判断の分析を EViews を使って行っています。そのほか、日本の産業部門の構造分析も進めています。

——自主研究のことを少し教えてください。具体的にどのようなことをご研究なさっているのでしょうか。

【後藤氏】

例えば、金融が実体経済に与える影響について研究しています。実体経済の動きに影響を受けて金融というものが変化していきますか、ただ影響を受けるだけでなく、金融が逆に実体経済に、加速度的な影響を返すだろうというものです。これはすでに歴史のあるテーマですが、こうした金融がマクロ経済で果たす役割を、特に「クレジット・チャンネル」という考え方に基づいて、VAR モデルなどを利用して研究を行っています。

——まさに現在の状況ですね。

【後藤氏】

その通りです。研究を始めた当初は、まさかこのような状況になるとは考えもしなかったので、急激な変化に驚いています。もう少しで研究結果がまとまる予定です。非常にタイムリーなトピックになりました。

● EViews をマクロモデルや時系列モデルに利用

——ところで、EViews を知ったきっかけと、実際にご利用し始めた時期を教えてください。

【後藤氏】

知ったきっかけは口コミです。仕事から、経済分析を仕事にする知り合いが多いのですが、4~5年ぐらい前から EViews を使っている人が多いことに気づき、使ってみようと思いました。実際に EViews を使い始めたのは一昨年頃からです。それから実証分析というものに対して、より一層理解が深まったと感じています。

経済学の教科書で理論だけ勉強しても、なぜこんな計測をするのだろうと疑問に感じてしまうことがあるかもしれませんが、実際にデータを集めて分析してみると、統計量や分析手法の持つ意味がよく分かると思います。

ですから、学部生の皆さんのように、若い人たちが、統計などの基礎をしっかり勉強し、次に手を動かして実証分析に取り組むことは非常に意味のあることだと思います。

—— EViews をどのような目的のために利用していますか。また、どのような機能が便利だとお感じになりますか。

【後藤氏】

目的ですが、まずはマクロモデルです。ただこれは私自身もさることながら、私の部署全体としての中心的な使い方です。私自身はむしろそのときどきのテーマ研究に使う

ことが多いです。時系列モデルなどをよく利用します。

EViews はメニュー画面が充実しているので、マニュアルを見なくても、とりあえず適当にいじっていればやりたいことにたどりつきます。本当に深掘りした独自の分析となるとコマンドを使うことになりませんが、プレリミナリーな分析の部分で疲弊しないですむのは大いに助かります。

—— EViews の機能などで、不便・わかりにくいと思われる部分を教えてください。

【後藤氏】

とりたてて不便は感じませんが、ファイルの保存の時に小数点の表示桁数の設定の選択を聞いてくるのは少しわずらわしく感じることもあります。また、proc と view の違いは、講習会で説明を伺うまではよく分かっていませんでした。

ほかには、これは無いものねだりだとは分かっていますが、せめてグラフや表だけでも日本語表示できると、そのまま邦文の研究に貼り付けられるのでありがたいです。

●「入門」講習会でハードルが一気に下がった！

—— 講習会もよくご利用いただいています。どのような感想をお持ちですか？

【後藤氏】

最初 EViews を使ってみようと思いついたときに、一方で、慣れるのに時間がかかるのかなとも思っていました。それが最初の「入門コース」を受講してハードルが一気に下がりました。EViews を利用した計量経済学の本が色々出ていますが、実際に本の通りにやってみようとするとなかなかうまくいきません。例えば、データの取り込みあたりでいきなり引っかかってしまいます。引っかかったところは時間があるときにやろうと思っているうちに、本を開かなくなってしまいます。講習会では直接指導してもらえ、その場で疑問も解消できるので助かります。

—— E ラーニングもご利用いただいていますね。

【後藤氏】

E ラーニングは、私より私の部署のスタッフたちが便利に使わせてもらっているようです。講習会に参加する時間がなかなか自由に取れないようなので、いつでも利用できることは利点ですね。最初のハードルを下げることに

大いに役立っていると思います。

● EViews により浮いたマンパワーを有効活用

—— EViews を利用した結果、直接、または間接的に後藤様ご自身、そして政策・経済研究センターとしてメリットを感じたことがあれば、教えてください。

【後藤氏】

多くの先生方も指摘されているところですが、EViews はあまりにも便利なので、本質的な理解がないままに、一見それらしい分析ができてしまう危険性があることは事実です。

しかし、それをもってして便利さの価値を損なうものではありません。使う側の問題です。

私や私の所属する部署は、その便利さを享受していると思います。やや逆説的になりますが、その便利さによって浮いたマンパワーを、ほかのソフトでないとできない作業に振り向けることもできます。

実際、私も空いた時間を使って Fortran のプログラムを動かすようになりました。過去の研究資料の中に Fortran を使った少し凝ったプログラムがあり、それを自分の研究用に変更して利用したかったのですが、ほかのプログラム言語に移植するのも面倒なので、Fortran が動く環境を作って、そこで自分なりに勉強してプログラムを動かしています。こういう時間も EViews を使うようになったおかげで作ることができました。

—— 当社のサービスや講習会へのご要望をお聞かせください。

【後藤氏】

上でも述べたことですが、EViews が真価を発揮するのは、扱っている計量経済学的手法が正しく理解されていることです。その意味で、御社が実施されているセミナーは意義深いことだと思いますし、進めてこられた大学の先生方とのタイアップも実りある方向だと期待しています。

今後、講習会としては、母集団に正規分布を仮定しないノンパラメトリックやセミパラメトリックの統計分析や、動学的一般均衡モデルの講習会を企画していただければと思います。

—— 今日はお忙しいなか、ありがとうございました。



編集後記

時折、激しい雨の降る中、JR 神田駅から鎌倉橋に隣接する三菱総合研究所様へ伺いました。高速道路の高架下にある鎌倉橋の手前に、第二次大戦の空襲による被害を今に伝える「まちの記憶保存プレートガイド」がありました。今から 65 年ほど前に、この場所が空襲を受け、それが今日までつなごうていることを示す貴重な資料です。